

雨の科学

担当 重 尚一

はじめに

雨がどのような大きさ(直径)の雨粒によってもたらされているかという雨粒の粒径分布は、雨が上空でどのような過程を経てつくられたかについて有用な情報をもたらす。また、レーダによって雨の強さ(降雨強度)を観測する際にも重要な情報である。

内容

本課題では、雨滴粒径分布や降雨強度を観測し、雨滴粒径分布の時間変化や降雨強度との関係などを調べる。結果の解釈のため、関連する文献を読んでいく。時間があれば、衛星データの解析なども行う。

尚、演習時間中に雨が降らないことが続いた場合、別に全員が都合つく日時に集まって観測を行うことがある。

ねらい

大気科学分野では既存のデータを解析することで研究を行えるが、自分たちでデータを取得することによって、データの貴重さや含まれる誤差などを体感できるだろう。自分達自身でデータを観測し解析することによって、様々な創意工夫をしたり、直接現象と触れたりする良い機会になるだろう。

連絡先: 理学部 1 号館 364 室 Tel: 075-753-4271 E-mail: shige@kugi.kyoto-u.ac.jp

参考: <http://www-clim.kugi.kyoto-u.ac.jp/>